

もっと笑顔で、暮らせる明日へ。

aito

1

Jan 2026
No.370



【特集】新春対談『庄内地域の農業の魅力と将来』 JA庄内たがわ × 山形県立庄内農業高等学校



耕そう、大地と地域の未来。

JAグループ



新年のご挨拶



代表理事組合長
海藤 喜久男

新年明けまして、おめでとーうございます。組合員・地域の皆様におかれましては、ご家族お揃いで、輝かしい新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。また、日頃より、JA事業をご利用いただき、厚く御礼を申し上げます。

我が国の経済は、米国の通商政策による影響が自動車産業を中心にみられるものの、先行きについては、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が緩やかな回復を支えることが期待されます。

政府は、「責任ある積極財政」の考え方の下、戦略的に財政出動を行うことで「強い経済」を構築するとしており、特に農業分野では、農業構造転換集対策の別枠予算の確保、農家・産地負担の引き下げ、手厚い地方財政措置等が盛り込まれた他、物価高対策の「重点支援地方交付金」を拡充し、食料品の物価高騰に対する支援を措置すること等が盛り込まれました。

さて、本組合は平成7年4月に現在の鶴岡市・庄内町・三川町の3行政管内にありましたが8つのJAが合併し、おかげさまで30年という節目の年を迎

えることが出来ました。あらためて心より感謝と御礼を申し上げます。30年間を振り返りますと、農業・社会情勢について様々なことがございましたが、本組合においては、長期基本構想および中期経営計画を策定して取り組み、生産者の皆様とその時々の苦難を乗り越えて、今日に至っているものと考えております。

令和7年の水稲の生育は、移植後の好天により、平年並みに近い数値で推移しましたが、6月下旬から7月下旬にかけて高温少雨が続き、一部の中山間地域では水不足による影響がみられました。その後、8月上旬の断続的な降雨により生育は回復し、出穂は平年よりも2日程度早まりました。日照時間が平年よりも多く、水不足が解消できたため、庄内での作況単収指数は104という結果となりました。一方、品質については、出穂後の積算気温が高く、刈り取り時期が早まったことから、胴割粒や着色粒が散見され、主食用米の一等米比率は95・2%と前年から3%ほど低い結果となりました。

販売面では「農業者の所得増大」のため、たがわブランド米の販売を中心に、農協直接販売比率を高める取組みを行ったことにより、生産者の皆様へ令和7年産米の追加精算が出来る状況となっております。

園芸品目では、6月下旬から7月下旬までの高温少雨の影響から収穫期を迎えていたナス、枝豆など一部の果菜類では収穫量が減少となりました。庄内柿においては、生育期間中にカメムシによる被害が発生しましたが、生産者の栽培管理の徹底からほぼ平年並みの品質を確保し、集荷量についても平年並みの2060トンの出荷を行うことが出来ました。また、販売環境では全国的に秋果実が少ない影響から平年より高い価格での販売となりました。

生産者が肥培管理などを徹底し、高品質な農産物を消費地に届けている一方で、近年顕著する異常気象など、生産者の不断の努力では、対応出来ない状況がある事も踏まえ、関係機関と連携し、今後も営農継続に意欲が持てるよう、要請運動を展開してまいります。

引き続き、JAの自己改革を進め、農家組合員との対話と協同を通じ、事業全般に亘る改革を進めるとともに、本支所施設の再編や体制強化を図りながら、持続可能な経営基盤の確立・強化に向け事業運営に取り組んでまいります。

結びに、新年、令和8年、が、組合員並びに地域の皆様にとりまして、明るい展望が持てる年となりますよう、ご健勝とご繁栄をご祈念申し上げます。新年のご挨拶といたします。

本年も宜しく
お願い申し上げます

代表理事組合長	海藤 喜久男
代表理事専務	小林 馨
常務理事	佐藤 茂春
理事	加藤 康光
理事	川井 利智
理事	佐藤 宣夫
理事	阿部 博義
理事	黒田 暢
理事	渡部 修
理事	大沼 恒司
理事	上林 淳
理事	佐藤 浩幸
理事	正田 勝幸
理事	宮崎 康史
理事	鈴木 康史
理事	田中 一茂
理事	清野 大輔
理事	小林 忠好
理事	佐藤 昌幸
理事	日向 誠彦
理事	成澤 和彦
理事	三浦 和彦
代表監事	押切 光久
常勤監事	佐藤 敏勝
監事	齋藤 克
監事	伊藤 忠篤
監事	牧野 篤
員外監事	斎藤 昇
職員	藤原 一
職員	同

新春対談

庄内地域の農業の魅力と将来



JA庄内たがわ × 山形県立庄内農業高等学校

平向総務部長（以下部長） 本日は「庄内地域の農業の魅力と将来」をテーマに、山形県立庄内農業高等学校（以下庄内農業高校）の3年生5名を迎え新春対談を行いました。農業高校の生徒として学び、自分の目指す将来に向けて努力し、庄内地域の農業の魅力や課題を高校生の目線から探究する皆様の考えを率直にお聞きしたいと考えております。

まず、皆さんが庄内農業高校で過ごした3年間で特に印象に残っていることをお聞きしたいと思います。

印象に残る体験

仲川さん 文化祭など、イベントでのお米の販売が印象に残っています。

畑山さん スマート農業、特にドローンやICTに興味があり、庄内農業高校では最先端の農業を学べたことです。

金丸さん 農作物を一から自分で育てる達成感や農業のこと、天気のことを話すことが増え、自分の視野が広がったこと、収穫のときの友達笑顔、農産物販売でのお客様の

笑顔を見ることができ、色々な人と関わる機会が増えたことです。

保科さん 「庄農うどん」や「ニュービス」(※)を作れたことがとても印象的でした。

武田さん 販売実習で農産物を販売しているときに地域の人たちが買ってくれて、笑顔になってくれたことです。

海藤組合長（以下組合長） 「庄農うどん」は美味しく、人気もあって秋に行われた「つるおか大産葉まつり」でも購入したかったが、売り切れて購入できませんでした。特にこだわっているところはどこですか。

保科さん 水分量と寝かせる時間にこだわって作っています。

体験からの学びを活かす

小林専務（以下専務） 高校生の活の3年間で農業高校ならではの体験など、様々な体験をなさったと思います。そこから学んだことやこれから活かしたいことを教えてください。

仲川さん 私は剣道部に所属し、インターハイ出場に向け

1901年に開校した県内屈指の歴史と伝統を誇る庄内地区唯一の農業高校である。食料生産科と食品科学科の2つの学科があり、授業や実習を通して様々な学びや経験を、地域の農業をはじめ各種産業の担い手として地域経済を牽引する人物を多数輩出している。



食料生産科3年 武田 陽愛莉さん
食品科学科3年 保科 大翔さん
食品科学科3年 金丸 歆絆さん
食料生産科3年 畑山 知之さん
食料生産科3年 仲川 晃生さん

普段の練習や遠征などを通して自分の課題に取り組みました。特に団体戦では、連携やコミュニケーションを取るために自分から積極的に声かけを行うことが大切だと感じました。

畑山さん 小さい頃から祖父の農作業の手伝いをしていて、ずっと農業がしたくて庄内農業高校に入学し、授業で水稲の栽培や農業機械に触れ、多くのことを学びました。

金丸さん 「農業クラブ」の山形県の会長として東北や全国の方々と農業を通して交流する機会が増えた1年でした。初対面の方と話すことに緊張するタイプでしたが、回を重ねるごとにコミュニケーション能力が向上し、初対面の方とも色々な話が出来るようになりました。

保科さん 庄内農業高校に入学して初めて農業を体験し、暑かったり寒かったり大変でしたが、仲間と一緒に育てる楽しさを年々感じるようになってきました。さらに自分たちが育てた農作物を地域の方々が笑顔で買ってくれることが嬉しかったです。

武田さん 最近の夏は異常気

象でとても暑く、熱中症になりそうでした。そんな中で農作物を栽培する実習は大変でしたが、猛暑を乗り越えて収穫した農作物を地域の方々が喜んで買ってくれたことがとても印象深かったです。

組合長 金丸さんが会長を務める「農業クラブ」はどのような活動を行っているのですか。

金丸さん 農業高校生が主体となって、日頃の農業学習の成果を発表したり、地域課題を解決する実践的な活動などを行っています。私の課題研究班では保科さんも一緒にグルテンフリーの米粉ケーキづくりを研究し、米粉に対する思いや米粉の特徴、米粉ケーキ開発・販売までの成果を「農業クラブ」の大会では発表してきました。

組合長 武田さんが感じた異常気象ですが、昨年7月の高温少雨、令和5年も同じ状況であったかと思えます。農業にはどのようなことが重要だと感じましたか。

武田さん やはり農業には水が欠かせないと感じました。私は卒業後、因幡堰土地改良区へ就職して農家の声を聞き、

環境にも配慮した活動をしていきたいと思っています。

組合長 水の必要性は近年の気候から特に感じるところがあります。就職後も頑張ってください。

部長 広報誌aito7月号の庄内生トライで畑山さんの家が唯一の「宝谷かぶ」生産者であったが、どのように栽培を行っているのですか。

畑山さん 山間部の斜面を焼いた後に種をまき、収穫、次の年の採種を行っています。家族だけの栽培は難しいので、SNSを活用してボランティアを募り、伝統野菜である「宝谷かぶ」を絶やさないように頑張っています。

部長 生産者が1軒になってしまったのは残念ですが、ぜひ絶やさないでほしいと思いました。また金丸さんは「レモネードスタンド」という活動を行ったと聞きましたが、どのような活動なのですか。

金丸さん 庄内地域の高校の生徒会が集まって意見交換する場があるのですが、鶴岡中央高校さんで「レモネードスタンド」を行ったと聞き、庄内農業高校でも行いたいと生徒会で話したのがきっかけです。

す。レモネードを販売し、その売上を小児がん患者の治療研究や支援のために寄付する社会貢献活動です。

部長 高校生からそのような活動をしていることに、率直に凄いと感じました。ぜひこれからも続けて下さい。

専務 保科さんは調理師への夢を広報誌aito8月号で拝見しましたが、グルテンフリーの米粉ケーキ作りをしてみようとしたか。

保科さん 米粉ケーキ専門店「あんどけーき」と一緒に商品開発し、そのお店で提供させてもらいましたが、お客様から「おいしい」と言ってもらい、改めて調理の道に進みたいと感じました。調理師になるのは小学生からの夢で、庄内農業高校でも食品加工の技術を詳しく学びたくて入学しました。

専務 調理の学科がある高校もあると思いますが、庄内農業高校を選んだ理由は何ですか。

保科さん 庄内農業高校では自分たちで育てた野菜や果物などで調理を行います。生産者の苦労であったり、農産物の大切さを感じる事ができ

調理師を目指す上でも良い経験になりました。

専務 J A庄内たがわ管内では「庄内柿」や「だだちや豆」と同じ茶豆品種である「出羽美人」など多くの果樹や野菜を生産しているため、今後調理などで使用したい農作物があれば相談して頂きたいです。

部長 庄内町で開催された「第19回あなたを選ぶ日本一おいしい米コンテスト」では、庄内農業高校で栽培された「つや姫」が高校生部門最優秀金賞を受賞されました。あれは庄内農業高校の田んぼで田植えから刈り取りまで皆さんが行ったのですか。

仲川さん 庄内農業高校で管理している田んぼで事前準備から種まき、そして収穫まで全て行いました。今年は特に水管理が難しかったです。

庄内農業高校の魅力

組合長 庄内農業高校のここが魅力と感じたことは何ですか。

武田さん 他的高校では学べない農業の専門知識が学べ、農業生産に活かせることです。
保科さん 他的高校にはない

特産品の「庄農うどん」や「ニユービス」があることです。

金丸さん 農産物販売や農業クラブの活動を通して様々な方と触れ合い、視野が広がり、自分の地域がより好きになるきっかけを作ってくれているところです。

畑山さん ICT農業などのスマート農業を学ぶ、最新の農業機械を体験できる場所です。

仲川さん 実習が多くあり、一年を通して農作物の栽培を学習できる場所です。さらに収穫後の販売や試食で食べ物のありがたさや大切さを再認識できる場所です。

庄内地域の魅力

組合長 これから皆さんは進学・就職などで多くの方々に出会うと思います。その方々に庄内地域をどのように紹介しますか。

仲川さん ありとあらゆる「食」、米や野菜、果樹、畜産水産物などが詰まっています。それが庄内地域の誇りだと感じており、その魅力を伝えていきたいです。
畑山さん 多くの人に美味し

そうだと強く印象に残るブランド力の高い農畜産物が多くあるところです。

金丸さん 鶴岡市がユネスコの食文化創造都市にも認定されているので、「食」の魅力が一番大きいですが、地域を盛り上げるために私たちのような高校生や若い人たちの話を聞き、実際にやらせてくれる大人たちの優しさに魅力を感じます。

保科さん 出羽三山や日本海、見渡す限りの水田など自然豊かで、そこでつくられた「食」が魅力だと感じます。
武田さん 庄内地域のお米は他地域と比べても違うと感じるので、庄内地域の「食」の魅力を感じたいです。

2026年の抱負

部長 これから庄内農業高校を卒業して、様々な進路へ進む皆さんの2026年の抱負をお聞きかせ下さい。

仲川さん 私は、東北農林専門職大学への進学し、庄内農業高校での実習の経験を活かして稲作を中心に最新技術を学びたいと思います。
畑山さん 私は、有限会社田

た地域にある「J A庄内たがわ」を思い出して下さい。今後の皆さんの活躍を大いに期待しています。本日はありがとうございました。

※「ニユービス」とは、58年前から庄内農業高校の加工実習で生徒たちが開発・製造・販売しているオリジナルの乳酸菌飲料。2025年に県内フルーツフレーパーの「新ニユービス」が販売されました。



総務部長 平向 秀一
代表理事専務 小林 馨
代表理事組合長 海藤 喜久男



凜とし、哀愁の津軽三味線 日々楽しく演奏♪

藤島支所管内
前田 孝志さん(79)



私は藤島芸術文化協会員で津軽三味線藤島探究会に所属しています。津軽三味線と言えば、吹雪に負けないように太い糸を強く叩き、細い糸を柔らかく弾き温かい春をじっと待つ「じょんから節」が有名です。私の持ち曲は、津軽じょんから節・あいや節・タント節、秋田荷方節、酒田甚句などです。これらの曲は、江戸時代後期に北前船の船乗りが肥後・越後から津軽に口ずさんで伝えたとされています。

津軽三味線は、棹が固い紫檀、花梨の太鼓に犬の皮を貼り、弦は絹糸、糸巻きは象牙、撥は鼈甲でできています。また譜面は三線譜で、「指で押さえる棹の位置」に「ドレミとリズム」を表示しており、ドレミは1から10の数字で、リズムは4分音符を数字のみ、8分音符を数字に下線、16分音符を数字に二重下線で表しています。

2025年は、1月の鶴岡市藤島地域新年会で祝演奏、7月の藤島古郡町内会敬老会で祝演奏、10月の藤島芸能祭で「津軽三味線早分かり講座」開催、11月に藤の花荘で慰問演奏を行いました。「津軽三味線早分かり講座」では、プロのビデオ演奏を鑑賞後、ドレミの弾き方やリズムを楽器に触れながら体験してもらいました。

今後も津軽三味線を楽しく演奏し続け、力強く迫力のある音色、高度で複雑な演奏技法、そして豊かな感情表現で魅力を伝えていきます。

あいとキッズ



夢を叶えて羽ばたいて

三川支所管内 齋藤 叶翔くん(1)・悠羽くん(3カ月)



好奇心旺盛!

叶翔くんはお料理やお掃除もみんなのマネをする、何でも興味津々なお兄ちゃん。消防車や救急車などの働く車に夢中です☺悠羽くんはとても落ち着いていてお兄ちゃんが何をするかジーンと見つめています。最近自分の手を発見して、お手々遊びがマイブームです🐾

マイペース♪



ファミリーファーム

FAMILY FARM

芯をぶらさず、自分を出す

羽黒支所管内 福田 侑生さん(25)



私は、結婚を機に地元へ戻り、家業である農業をしようと考え、現在は「鶴岡市立農業経営者育成学校(SEADS)」の研修生として学びながら、水稲11.5畝、露地ネギ8畝、庄内柿30本を父と栽培しています。

SEADSでは、榊引地域の水稲農家さんへ研修に行かせてもらい、教わったことを自分の水稲栽培に活かし、1年間で2度栽培を経験しているようで楽しいです。また様々な分野から就農を目指す研修生、実際に就農している修了生に出会い、相互で刺激し合えるところに魅力があります。

農業では、屋内での仕事からの転職、近年の猛暑もあり、夏場の草刈りは特に大変に感じました。また新規作物候補として研修先で教わったアールスメロンの栽培は、来年の作付けに向け、地域の違いを理解し、完成度の高いメロンができるよう栽培方法の改善・改良を行っています。

今後は反収・食味などの質にもこだわった農業を行い、新規作物を取り入れながら規模拡大を行っていきます。1年間を振り返ったときに、「今年も忙しく働いた!」と感じられる経営を父と、そして家族と行っています。

SHONOSEITRY

庄農生トライ



米粉でつなぐ笑顔の輪

食品科学科3年 金丸 歓絆さん

私は、授業で小麦アレルギーを持つ人でも安心して食べることができる米粉を目指してのグルテンフリー食品の研究をしてきました。商品開発では、難しさを痛感しながらも、たくさんの人に御協力いただき米粉ケーキの販売をすることができました。お客様からは「とってもおいしい!また買いたい!」という、嬉しいお声をいただき達成感で胸がいっぱいになりました。また、米粉の加工品をより多くの人に認知、消費してもらうために、子供食堂などで米粉の加工品を提供できたら、食物アレルギーで悩む人に安心をプラスでき、米粉加工品の認知度向上や、米粉の消費拡大にもつながっていくのではないかと考え、活動を行いました。何より、地域にたくさんの笑顔を増やすことができ、とても嬉しかったです。

私は卒業後、東北公益文科大学へ進学します。この研究を通して、人の繋がりを大切に、豊かな心を育み、たくさんの笑顔を作り出せるような社会にしていきたいと思いました。将来は、この考えを実現できるように更なる努力をしていきたいです。





職員サンタが子供たちへプレゼント

12月23日、サンタクロースに扮した職員が「アンパンマンこどもくらぶ」の会員宅を訪問し、子どもたちにクリスマスプレゼントを手渡す季節のイベントを行った。期間中に会員151人に各支所の共済課職員らがプレゼントを渡す。その中でも、サンタクロースの衣装をまとった職員が同くらぶ会員宅を訪問する活動は同JAの独自企画。アンパンマングッズなどが入ったプレゼントをサンタクロースから受け取ると、子どもたちは驚きながらも満面の笑顔を見せ、一足早いクリスマスを楽しみ、サンタクロースとの思い出をつくった。



鶴岡警察署より感謝状を受贈

JAは12月23日、鶴岡警察署で犯罪被害者支援に寄与したとして表彰された。地域貢献の一環として、同警察署が毎年開いている文化祭に農産物を無償で提供しており、その功績がたたえられた。売り上げはすべて山形市にある「やまがた被害者支援センター」の活動・運営支援に充てられている。この日は、同警察署に鶴岡市、三川町で地域の安全を守る業務に貢献した6個人5団体が招集され、海藤喜久男組合長が同警察署長より感謝状を受けた。同警察署長は「日頃より警察業務にご理解、ご協力をいただき深く感謝する。今後とも地域に安心・安全をお届けするためご協力いただきたい」と話した。



女性生産者に向けた剪定講習会でポイント学ぶ

庄内柿生産組織連絡協議会は12月23日、羽黒地域で女性生産者を対象にした庄内柿剪定講習会を開いた。この日は、同会の岡部順会長、県庄内技術普及課担当職員が講師となり、参加した女性生産者ら約20人は、剪定のポイントや留意点を確認した。講習後は、電動工具メーカー担当者より電動ハサミの紹介が行われた。

普及課担当職員は、剪定前に樹勢を確認する他、養分の流れをよくするため樹の先端を高くし、競合枝を整理するなど樹のバランスをとるよう呼び掛けた。また、充実した結果母枝を多めに残し、樹冠拡大のため側枝先端を切り詰めずに利用することをアドバイスした。



養豚部会肉豚枝肉共励会・高品質庄内豚を出品

養豚部会は12月5日、「第23回肉豚枝肉共励会」を庄内町の庄内食肉公社で開いた。厳正な審査の結果、北部支所の西村俊さんが最高賞となるグランドチャンピオンに輝いた。共励会には、部会員が丹精込めて育て上げた去勢・雌の豚合わせて5組・10頭を出品。日本食肉格付協会の格付員が、肉の締まりや背脂肪の厚さ、ロース芯の太さなどを細かく審査した。格付員は「上物率が全体の70%と全国平均を上回り、どの枝肉も適切な背脂肪量で外観も良く高品質だった。生産者の日頃の丁寧な管理が窺える」と講評。JAでは今後も、飼養管理技術等を指導しながら、高品質庄内豚の生産と消費拡大を図る。



女性大学「あいとスクール」閉校式

12月13日、本所で女性大学「あいとスクール」2025年度、第18期の閉校式を開いた。参加した受講生ら14人は、同大学学長である海藤喜久男組合長から修了証書を一人ずつ授与され、全4講座の受講を修了した。今回は修了記念体験として、家の光12月号で特集されている『防災ポトルづくり』を行い、災害時に使えるグッズを詰め込んだ防災ポトルの作製方法を学んだ。参加した受講生らは、「講座内容によって開催場所も違い、鶴岡市内の様々な地域に行くことができて良かった」とにこやかに感想を話した。今後、受講生からのアンケートを参考に26年度へ向けての企画を検討していく。



庄内町産花きに親しむ

庄内町花き振興会は12月13日、余目第四まちづくりセンターでフラワーアレンジメント親子教室を開いた。小中学生とその保護者合わせて51人が参加し、「クリスマス」をテーマにしたフラワーアレンジメントに挑戦した。開会にあたって、同会の池田宏志会長が「庄内町の花であるストックの良さを皆さんに知ってもらいたい」と挨拶し、フラワーアレンジメントの材料として同町産の花きが提供された。参加した親子は、講師である鶴岡市の「花蔵」店主三浦淳志さんから、花の切る位置やオアシスの挿す場所などアドバイスを受けながら、協力して作品を完成させた。作品は自宅に飾られ、クリスマスを彩った。



エダマメ・安定生産に向け種子を選別

枝豆部会は12月2日、羽黒支所分析センターで2026年度に播種予定であるエダマメ種子の選別目揃え会を開いた。種子生産者や部会役員ら4人が参加し、種子の水分量や重量の測定、選別を行った。この日は、品質の良い種子の選別基準を確認し、手作業で選別した。園芸特産指導員によると、7月の高温少雨の影響はあったものの、8月のまとまった雨により生育は良好に推移したという。今後は、カビた種子は取り除くなど選別基準を遵守し、良好な種子を選別していく。選別したエダマメ種子は発芽試験を行い、4月に部会員らへ配布する予定だ。



軟白ネギ目揃え会・規格確認し高品質出荷へつなげる

長ねぎ部会は12月11日、三川町の集出荷場で軟白ネギの目揃え会を開いた。部会員約20人が参加し、出荷規格や出荷調整・選別作業のポイントを確認した。

この日は、園芸特産指導員が調整時のポイントを説明。根は切るが茎盤部分を5センチ程度残し、ネギの全長は72センチに切りそろえるよう呼び掛けた。また、収穫したネギは取り置きせず、茎の曲がりを防ぐため明るい場所に置かないこととした。軟白ネギの出荷量55トン販売高2200万円を目標とし、主に関東市場へ向けて3月末まで出荷していく予定だ。



JA庄内たがわ 介護保険事業のご案内

介護が気になり始めたら...
お気軽にご相談ください。

ケアマネージャー (居宅介護支援事業)

介護保険を利用する際の相談窓口です。利用申請の代行手続きや介護保険に関する相談などお気軽にご相談ください。



ご自宅に訪問してホームヘルパー（訪問介護員）が食事、入浴排せつの介助や調理、掃除などの家事支援をおこないます。

ホームヘルパー (訪問介護事業)

福祉用具レンタル 販売事業

快適に自宅で暮らせるように「車いす」や「電動ベッド」「手すり」などをレンタルします。あわせて、入浴用品やポータブルトイレなどの販売もいたします。



施設に通い、食事や入浴などの日常生活上の支援や、生活機能向上のための機能訓練などを日帰り提供します。利用者の自宅から施設までの送迎も行います。

デイサービス (通所介護事業)

介護のお問い合わせ

(居宅介護支援<ケアマネジャー>、訪問介護<ホームヘルプ>、通所介護<デイサービス>、福祉用具レンタル・販売)
総務部福祉介護課 〒999-7621 鶴岡市長沼字宮前23-1 TEL0235-33-8165

JA庄内たがわ 産直んめ農マルシェ 1月・2月イベントのお知らせ

1/24(土)・25(日)
全農神奈川フェア
全農神奈川直送の加工品などを販売

1/31(土)
落花生 大特価

2/1(日)～2(日)
恵方巻販売
お昼前より販売致します。
1本700円(税込)
(売切れ次第終了)

JAカードでお買い上げの方は 請求時に5%割引!

※写真・イラストはイメージです。
※各イベントは天候、取組状況により予告なく内容が変更となる場合がございます。予め、ご了承ください。

10月から3月までの営業時間9:00～17:00(定休日:1/1～3, 1～3月の第2・第4水曜日)
なお、営業時間は諸事情により変更になる場合があります。変更の際は、ホームページなどにてお知らせします。
〒997-0824 鶴岡市日枝字小真木原88-1 TEL0235-25-6778 FAX0235-26-7880 E-mail sanchoku@ja-shonai.or.jp

農産物を出荷していただける産直協力を随時募集しています! [オンラインショップ](#) [産直んめ農マルシェ](#) [検索](#)

組合員異動について

経営移譲等で組合員資格に異動があった場合は、当JAの定款に基づき資格変更の手続きを行いますので、お近くのJA各支所管理課へお申し出下さい。

JANEWS女性部特集

女性部30周年記念事業・30年の節目、さらに魅力ある女性部へ

女性部は今年で設立30周年を迎え、12月7日、本所で合併30周年記念事業「助けあい♥学びあい♥育てあい♥」2025を開いた。8つの支部の部員とJAの役員ら約80人が参加。記念講演として庄内井マルチタレントのナマリーポートマン氏が『なまりで広がる健康の輪』と題して講演やクイズ、『ナマリビクス』などを行った他、研修として家の光12月号を活用した防災ボトルづくりを行った。池田玲子女性部長は今年の流行語大賞を受賞した高市早苗首相の言葉を引用し、『働いて』×5とはいきませんが、『活動して休憩して』×5、これからも女性が元気で力強く活動していける魅力ある女性部にすべく、無理をせずこれからも長く活動を続けていきたいと思います」と挨拶した。また来賓を代表して海藤喜久男組合長は「女性部の30年間の多岐に渡る活動に敬意を表する。今後とも女性の声をJA事業に生かすとともに、ますます活躍してくれることを期待している」と祝辞を述べた。



フードドライブ・食料品等寄贈し地域に貢献

『もったいない』を『ありがとう』に変える取り組みとしてJA庄内たがわ女性部は、12月4日に鶴岡市、9日に三川町、16日に庄内町の社会福祉協議会へ食料品や生活用品を寄贈した。

この活動は2020年から続けており、部員などから集められたお米をはじめとする食料品、ボックスティッシュなどの生活用品を各支部を管轄する社会福祉協議会へ女性部の代表者が毎年届けている。25年は物価高騰が続く中だが、500点以上の食料品、生活用品が集まった。

女性部の池田玲子部長は「今回は部員から例年以上の協力があり、お米をはじめ多くの食料品、生活用品を寄贈できた。より多くの方へ届けてほしい」と話し、また本間洋子副部長は「部員らの善意により今年もこの活動を継続できた。提供いただいた部員らのまごころも一緒に届けてほしい」と話した。

女性部はこれからもSDGsの基本理念である『誰一人取り残さない』の具体的な活動の一つとして、この活動を継続していく。



議案報告 理事会だより 令和7年12月26日

- 第1号 令和7年度11月末実績検討について
 - 第2号 令和7年9月期半期ディスクロージャー誌開示について(案)
 - 第3号 令和7年度上半期決算にかかる監事監査報告書について
 - 第4号 大口資金の貸出について(案)
- 以上4議案、慎重に審議され原案通り決定されました。

報告事項

- ・組合員の異動について
- ・令和7年度女性総代研修会の開催について
- ・令和7年度提案制度の入選結果について
- ・子会社の令和7年度上半期決算にかかる監事監査報告書について
- ・法人向け特別キャンペーンについて
- ・公共団体への貸出について
- ・令和7年度産米追加精算について
- ・JA庄内たがわ「つや姫コンテスト2025」の結果について
- ・令和7年度産内柿販売状況について
- ・その他

「心の声」2月号投稿のテーマ

「2026年は午年。どんな一年にしたいですか?」

【応募方法】下記の①～③を郵便はがき・Eメールにご記入の上ご投稿ください。①テーマの答え(本紙やホームページ等で掲載致します)②住所・氏名・年齢・電話番号③広報誌の感想、JAへの意見・要望など
【あて先】JA庄内たがわ広報情報係 〒999-7611 鶴岡市上藤島字橋中下3-1 E-mail kouhou@ja-shonai.or.jp
【しめきり】令和8年1月30日(金) 当日消印有効 ※投稿頂いた方の個人情報は、目的以外には使用いたしません。



「心の声」

2025年の思い出を 教えてください。

5月に横浜港発着で5万トンのクルーズに参加したことです。釜山に行き、帰りは広島、和歌山、伊勢などに寄ってきました。初めてのクルーズでどうかと思って行きましたが、あっという間の9日間でした。中身は超豪華でまたどこか行きたい。K・Sさん【鶴岡市】

末っ子の小学校の入学式です。恥ずかしがりやの末っ子の堂々とした姿に成長を感じました。H・Sさん【鶴岡市】

去年は特に熊が出るかと不安でしたが、それ以上に舞茸が出るか気になり山へgo！丁度のタイミングで収穫し山の恵みに満足と感謝です。M・Hさん【庄内町】

一生に一度は「西の伊勢参り、東の奥（出羽）参り」と古来から言われていましたが、今年、古希を迎え、女房と連れ立って、子供家族共々お伊勢様の外・内宮に参拝できたのが忘れることのできない一生の宝となりました。感謝。T・Kさん【鶴岡市】

2025年、まずいろいろお世話になった方々に「感謝」を申し上げます。ありがとうございます。そして一番嬉しかった事は、お客様が入ってこられてすぐ私の手を握られて「赤ちゃんができました。来年（令和8年）の2月です。一番に教えたかったです。」と、私は最高に嬉しかったですね！すぐ「おめでとう!!」と「大事にしてね!」と伝えました。いろいろ人生ありますが毎日を楽しく豊かに過ごせたいと思います。Y・Sさん【鶴岡市】

還暦で定年退職後新たな職場では1ヶ月半で退職したことです。こんなに短い期間で退職したのは、人生初です。あまりいい思い出は無くても忘れられません。S・Nさん

2025年の思い出は、初めて盛岡でわんこそばを食べて、123杯で100杯達成賞をもらった事です。蕎麦や菜味も美味しく、楽しみながら食べられました。来年は、150杯を目指したいと思います。K・Yさん【鶴岡市】

赤川花火大会。家族でワイン、ビール飲みながらだだちゃ豆をつまみにきれいで幸せな瞬間に酔いれました。花火の色、♪音楽、旨い酒（ワイン）、だだちゃ豆、最高の夜だ!! Nさん【鶴岡市】

教え切れない中でも赤川花火大会抽選で当たり、2回目。孫たちは今回帰ってこれなかったのも、じい〜じと2人仕事を休んで、枝豆・焼き鳥・おにぎり・ホットドッグ・お酒と、歩いて歩いて見に行けました。E・Sさん【鶴岡市】

2025年度の思い出は、今年度の流行語「古古米」に示されるように、食糧危機が想起されます。新米が市場流通後も米価格の高止まりが続いています。飼料米や畑作奨励という価格統制ではなく、努力する生産者へインセンティブを働き掛けるような農政見直しの契機としてほしい。M・Kさん【京都府】

洗濯機、給湯器が壊れ、家電に恵まれませんでした。出費が凄かった年でした。H・Kさん【愛知県】



※校了の都合により、投稿の締め切りは毎月二十日とさせていただきます。

阿部 月山子

早稲田かな

負けぬ庄内

荒天に

◎新年詠

踊り子の 頬紅合款の 花のごと
鶴岡市越中山 佐藤 照子

◎優秀賞（9月号に掲載）

まんさくの 咲きて窓辺の 明かりかな
鶴岡市越中山 菅原 しづ子

◎優秀賞（4月号に掲載）

猪鍋を 囲い獵夫の 晴れの顔
鶴岡市東岩木 小野寺 弥一

◎最優秀賞（4月号に掲載）

ご入賞おめでとうございます。入賞者には表彰状と記念品を贈らせていただきます。

俳句教室
2025年 年間賞発表